

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年12月23日(木)

2021 しめくくり号

## ◇ きずな



毎年、清水寺で発表される「今年の漢字」。2021年は【金】である。

東京五輪の金メダルラッシュという明るい話題が日本を照らした年であったともいえる。

この【金】の文字。00年、12年、16年に続いて、実に4回目の選出。共通するのは、いずれも五輪年だ。

今年の漢字で印象深いのは、2011年の【絆：きずな】である。

東日本大震災という天災が日本を大きく揺り動かす中で、「震：95年」や「災：04年と18年」、「禍」ではなく、希望をもたらす【絆】であったことに「金」以上の輝きや光を感じたのは自分だけではなからう。



毎年、年末に発表される「今年の漢字」であるが、「倒」「戦」

「偽」など、マイナス的なイメージを連想させるものが多い。その中で【絆】は「金」や「愛」と並び、プラスのニュアンスを備える突き抜けた存在なのである。

### <1995年(平成7年)以降の【今年の漢字】一覧>

95年「震」	96年「食」	97年「倒」	98年「毒」	99年「末」	00年「金」	01年「戦」
02年「帰」	03年「虎」	04年「災」	05年「愛」	06年「命」	07年「偽」	08年「変」
09年「新」	10年「暑」	11年「絆」	12年「金」	13年「輪」	14年「税」	15年「安」
16年「金」	17年「北」	18年「災」	19年「令」	20年「密」	21年「金」	

さて、【絆】の文字。

漢字を分解すると、【半分】の【糸】、  
【糸】の【半分】と、実に中途半端である。

自分も若く、ネット環境のない時代。  
この問題を明快に解いてくださった方が  
いる。現、新香山中学校の〇校長先生だ。

(前略)

…なかなか面白いことを聞くねえ。

<〇先生、自分の質問にしばらく考える>

こういうのはどう？

「糸を半分にする」と解釈するから、おかしくな  
る。すでに「半分になっている糸」、その前に立  
っている人たちがいると考えればいい。

「人が半分にした」のではなく、「半分になっ  
ている糸を人がどうするか」ということだ。

つまり、「半分になっている糸」を【繋ぎ合  
わせる】のが【絆】であって、「半分になった糸を  
【繋ぎ合わせることに意味】がある」。

もう一度切れて半分になったら、また、繋ぎ  
合わせればいい。何度でも。

それが【絆】。

こんなんでもうかな… (後略)



よくこんな答えを、短時間で導き  
出すものだと感心した。感心という  
より感動。泣きそうになった。

因みにネット調べてみると、〇  
先生の解釈ではなかった。いわゆる  
毛利元就ちなの「三本の矢」である。

『一本の糸は弱い、それを半分に  
して束ね、2本にすれば強くなる。』

分からなくてもないが、私は〇先生  
の解釈の方がしっくりくる。

ばらばらになりがちな心をつなぎ  
合わせるのが【絆】である。

さて、子どもたちの学校生活。2学期もたくさんの行事があった。多くの思い  
出もできたろう。

大事なことは、「何をしたか」ではなく、行事を【誰と行ったか】である。

もともと同じ種類の糸なら、結び付けるのも問題はないが、太さや硬さ、長さ  
の異なる2本の糸(性格や体格、人柄の異なるクラスメイト)を結び付けるのは  
難しい。それでも結び合わせることができなのが学校である。

2021年に結んだ「友との絆」。2022年、さらに強固になることを期待する。